

2022年6月10日

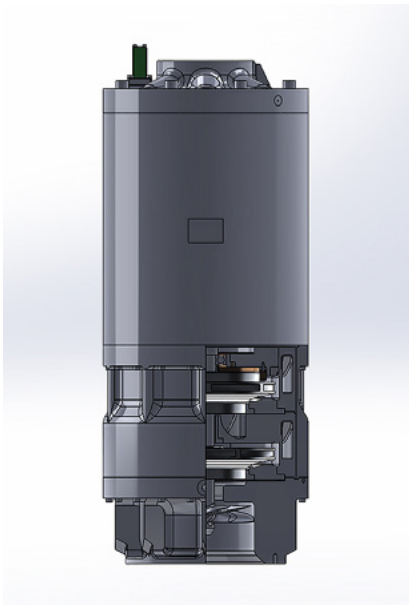
LNG燃料用ポンプを開発 大晃機械工業、2種・5タイプを23年4月販売へ

大晃機械工業は、LNG燃料に対応する燃料移送ポンプの開発に取り組んでいる。サブマージドモーターポンプとディープウェルポンプの2種類で開発を進めており、実液での運転検査で品質を担保する。2023年4月の販売開始を見込む。当面はLNGをターゲットとするが、今後の燃料転換を見据え、LPGやアンモニアなどの次世代燃料についても検討する方針だ。

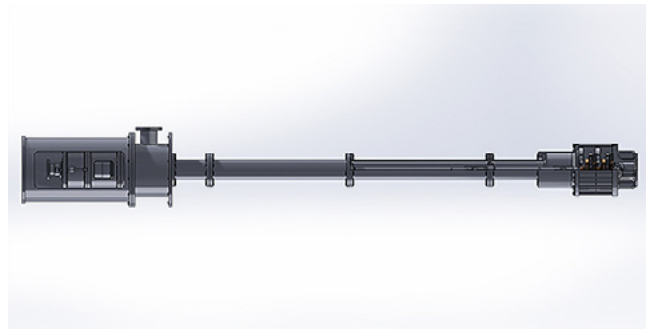
同社は燃料油ポンプで高いシェアを持つが、海運の脱炭素化に向けたエネルギー転換の流れを受け、次世代燃料に対応するポンプ開発を急ぐ。電動機と一体で液化ガスに浸漬して使用するサブマージドモーターポンプでは、バンカー船（船舶燃料供給船）向けの荷役ポンプとして2タイプと、エンジンに燃料を供給するための燃料供給ポンプの計3タイプ。電動機をタンク外に置き、ポンプ部分をタンク内に設置するディープウェルポンプは、バンカー船向け荷役ポンプと、燃料供給用の計2タイプを開発中。いずれも今年度中には実液試験を完了する見込み。

同社は先行する他社製品に対して競争力を発揮するため、LNGの実液での検証を行うことで、品質を担保する。山口県の本社工場近くに新設した、LNGと液化窒素で運転可能な検査工場を活用する。また、開発においては、同社がケミカルタンカー向け荷役ポンプの実績で培った知見や技術を生かす。

当面はLNG向けに注力するが、今後、LPGやアンモニア、液化二酸化炭素（LCO₂）、液体水素についても検討を進める方針。



L N G燃料用サブマージドモーターポンプ



L N G燃料用ディープウェルポンプ

海事プレスに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。
© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.
No reproduction or republication without written permission.

株式会社海事プレス社の許可を得て掲載しています。